



Title	広東活動記録(2015年3月8日～19日)
Author(s)	山本, 一
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2019, 9, p. 88-89
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84915
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

海外調査活動記録

(1) 広東活動記録 (2015 年 3 月 8 日～19 日)

山本 一

3 月 8 日 (日) 【関空発⇒広州着】中国南方航空 CZ390 便

片山剛 (大阪大学教授)、山本一 (大阪大学特任研究員) が広州に到着。宿舎は建国賓館。今回の調査の主な目的は、広東省檔案館での文献史料収集と金利鎮における現地調査である。

3 月 9 日 (月) 広東省檔案館 (広州市天河区)

宿舎を麗柏国際酒店に移動し、広東省檔案館での調査を開始する。片山は金利鎮に関する 1930 年代の檔案をマイクロフィルムで閲覧する。山本は 1950 年代の査田定産工作・農業税政策に関する檔案を閲覧する。いずれも昨年の作業の継続である。

3 月 10 日 (火) 広東省檔案館

前日と同じく広東省檔案館にて史料収集を行う。

3 月 11 日 (水) 広東省檔案館

前日と同じく広東省檔案館にて史料収集を行う。

3 月 12 日 (木) 広東省檔案館

前日と同じく広東省檔案館にて史料収集を行う。片山・山本ともに予定していた調査の大半を終えることができた。

3 月 13 日 (金) 【広州市⇒高要県金利鎮】金利鎮政府／金一村委員会 (肇慶市高要市)

早朝、陳忠烈氏 (広東省社会科学院) と合流し、高要市金利鎮へ移動する。宿舎は金盛大酒店。

午前中、金利鎮政府を訪問し、今回の調査の概要を説明する。

午後、金一村委員会にて古老からの聞き取りを行う。内容は前回と同じく、民国期～土地改革前後の金東围における土地所有形態についてである。

金利鎮政府や金一村委員会にて、昨年まで聞き取り調査を行ったインフォーマントが数名逝去していることを知らされる。

3 月 14 日 (土) 金利鎮

この日は休息にあて、これまでの調査成果の整理と、これからの予定を練る。

3月15日（日） 金利鎮

午前は休息し、午後は車をチャーターして簡単な実地調査を行う。茅崗村の譚氏の案内で、村内の廟などを見学する。

3月16日（月） 金二村民委員会

午前中、金二村民委員会にて、土地の所有状況や、洪水の起こり方などについて、古老への聞き取りを行う。

午後は、聞き取りの後、ワシントンで収集した空中写真を手に、古老とともに農村を実地踏査する。いくつかの土名（ラン名）を地図上で確認することができた。

3月17日（火） 金江村民委員会

午前中、金江村民委員会にて、土名（ラン名）の確認と土地所有形態についての聞き取り調査を行う。

午後、まずは民国期において金江村が所有する農地の境界を示した「石碑」（なお、「石碑」そのものはすでに存在していないが、それは文献史料に登場する乾隆年間のものかもしれないと期待した）があったとされる場所を、古老とともに確認して歩く。その後、村の廟・社について、また魚塘の権利の入札についての聞き取りを行う。

3月18日（水） 金江村民委員会 【高要県金利鎮⇒広州市】

午前中、前日とは異なる古老に来てもらい、聞き取り調査を行う。

午後は前日の「石碑」の場所を再度確認する。その結果、これは「石碑」ではなく、民国期の金溪郷との境界紛争の結果、高要県が指示し、金溪郷の人々によって設置された、金江村（当時の村名は騰岡村、白藤岡村）の「村（農地を含む）の範囲」を示した界石だと分かり、文字史料との一致を確認できた。

その後村民委員会に戻り、土地改革時期の状況等について再び聞き取りを行う。

夕刻、一度金盛大酒店に戻ってから広州に帰り、陳忠烈氏と別れる。

3月19日（木）【広州市⇒関空】中国南方航空 CZ389 便

片山・山本が帰国する。
